

令和7年度第1回芽室町総合教育会議 議事録

日 時 令和7年6月27日（金）15:40～16:40
場 所 芽室町役場2階会議室7

出席者	芽室町長	手島 旭
教育委員会	教育長	程野 仁
	教育長職務代理者	鳥本 和宏
	委 員	福井 栄子
	委 員	松久 大樹
	委 員	土井 槟悟
総合教育会議事務局	政策推進課長	有澤 勝昭
	政策推進課政策調整係長	大石 秀人
	政策調整係主事	天野 美音
教育委員会事務局	教育推進課長	坂口 勝己
	教育推進課長補佐	加藤 伸啓
	生涯学習課長	江崎 健一
魅力創造課	魅力創造課参事	中村 宗紀

議事録

1 開会

要綱第4条に基づき、町長が議長になり進行

2 議題

（1）新嵐山スカイパーク再生基本構想（概要版）について
中村魅力創造課参事から、資料に沿って計画について説明。

手島町長

教育委員や町民という立場で、ざっくばらんに話してほしい。

鳥本委員

昨シーズン、スキー場をオープンしたが、飲食店等の評価はどうだったか。

中村魅力創造課参事

昨シーズンは、1月11日にオープンした。3月16日までの約2か月の営業で、7万8千人の利用があった。割合は、町民25%、管内72%、管外3%である。飲食については、町内事業者によりコンテナでのサービスとした。全体の利用者数は、休業前で30万人であったが、昨シーズンは、オープンしているかどうかの問い合わせも多かったため、PR不足もあったかと思う。

手島町長

降雪状況も関係していると思う。休業前までは、冬休み前にオープンできていた。開設日数は、利用者数に大きく関わる。また、リフトは安全面において、第2リフトが古くて危ないという指導があった。第1リフトしか動かせる状況でないため、他の策も考えたが、結果的に、リフト1本でやることになった。

程野教育長

出店した飲食業者の声はどうだったか。

中村魅力創造課参事

週3日出店する予定だったが、週末以外は来客がなかった。冬休み期間もほとんど営業できなかつたため、平日の集客が厳しく、土日のみの営業となった。週末の来客はあったようだ。

松久委員

嵐山は、町民の興味があるところだとは思うが、正直よくわからないというのが感想である。「あり方の骨格」「グランドデザイン」「基本構想」「基本計画」などあるが、どれがどれかわからない。意見の言いたい人もいると思うが、よくわからない状態だと発言する人も限られてくると思う。そうなってくると、一部の声の大きい人の意見しか反映されないと思う。わからない状態だと、興味も薄れていくのではないか。また、説明の場を設けてくれていると思うが、正しく説明しようとすることから、町民にはわかりにくい。町民向けにわかりやすく、「いつ頃からなにができるのか」など使う人のメリットを示した情報発信をしないと興味が薄れていくと思う。

手島町長

ポイントは基本計画であり、そこで事業がはっきりする。嵐山としての機能を、構想やグランドデザインで作り、どういう嵐山していくかは基本計画で決めることとなる。経済状況も加味して、必要なものをまとめするのが、基本計画である。

町民への説明としては、年明けに巡回型未来ミーティングなどで、町としての方向性を明らかにしたい。また、一定程度お金はかかるが、総事業費だけで判断はしてほしくない。補助金や交付金で、町の負担を少なくするように努力しているため、町の負担がいくらかで判断していただきたい。

松久委員

基本計画で事業が見えてくるのであれば、「町民の意見を聞いてこうしました」というより、町長自身が「こうしたいんだ」ということで話してくれたほうが良いと思う。町民にとっても、検討した結果できない言い訳をされるよりは、町長の思い描く嵐山を伝えてもらったほうが、受け取りやすいのではないか。何言っても反対したい人はいる。何を言っても満場一致にもならない。そのため、町長の思い描く嵐山をうまく説明してもらえたと思う。

手島町長

腹をくくって「こうしていく」と言えるのが基本計画になる。町財政全体も分析しなければならないが、胸を張って頑張りたいと思う。

「嵐山にお金かけるなら、町民サービスにお金を回して」という意見を言う方もいるが、公共施設というのはそういうことではないと思う。何を言っても反対する方はいるが、そこの説明はしっか

りとできるようにしたい。

土井委員

例えばの話だが、嵐山単体で進めるのではなく、道の駅の設置をするなどしてはどうか。道の駅にスキー場が併設しているというのは、全国的にあまり見ないのでないのではないか。付帯施設があると通常年で稼げるようになると思う。話題になるものがあれば集客もできると思う。

手島町長

モンベルの会長からもそういう話はあった。反対するわけではないが、道の駅のような、愛菜屋のようなやり方もありだと思う。その構図は、パークPFIで進めていこうとしている。モンベルショップばかりピックアップされているが、日高山脈のビジターセンターなど、道の駅のようなものを含めて進めていきたい。

嵐山にモンベルショップの設置をあきらめたのは、まちなか再生のためである。ショップを嵐山にもっていくことも考えたが、結果としてはマーケティングの関係で、国道と高速道路からアクセスがある立地に設置した方が町の活性化のためになるということになった。

土井委員

南富良野にあるモンベルショップは、人が来ているようだ。

手島町長

芽室町への設置は、十勝より東側の人などにニーズがあると思っている。道東で旗艦店が出来るのは芽室町1店だと思うため、誘致できると価値として高いと思う。また、他の自治体も交渉しているという事実があるため、もたもたしていられない。

鳥本委員

地元民にとって、嵐山はイベントも多く、思い出も多いところだと思う。休業前までの状態に戻せとは言わないが、他の管内に無いものを作れたらいい。子ども視点のものを作ることで親世代の集客になるし、展望台は感動してもらえる場所であるため、そういう自然を活かしたものがあるといい。

手島町長

子どもの視点は必要である。

福井委員

嵐山でカチフェスを開催したときに、すごく多くの人が来たあの景色が忘れられない。ハード面で整備をするとお金がかかると思うが、無理にお金をかけなくても人は集まるのではないか。スキー場については、自分自身は運動をしないのでわからないが、子どもたちにとっては、初めてスキーをした思い出の場所になるといいと思う。環境は変わるが、過去の嵐山を思い描いてこれからの中山を作っていくのはどうかなと思う。

手島町長

頭の転換も必要であると思っている。休業前は、ドッグランも人気であったため、そういう機能を残していくといいなとも思う。また、屋内遊戯施設を設置すると目玉になると思う。南幌町に

ある施設は、すごく人が来ているようで、売りになるなと思ったが、音更やヨーカドー跡地でも屋内遊戯施設を作るとのこと。今、ブームが来ており、色として出すには薄まってきていると感じる。そのため、自重して、自然を活かしていくのがいいかなと思っている。お金をかけずに、いかに魅力的にするかの工夫が大事である。

松久委員

話を聞く限り、モンベルには多くの人が来るのかなと思う。モンベルに来る人は、意識的にアウトドア志向の人が多いのではないか。例えば、遠方から来た人に、「まちなかから20分車で走ると、嵐山がある」というような案内をして、嵐山に人を集めの流れを想定した場合、町民が考える嵐山とは、ずれる気がする。ずれがあるという認識で、どこに軸を置くか考えることが必要かと思う。自然を最大限活かしていければいいと思う。

手島町長

集客力として、パークPFIを使いつつ、嵐山・まちなかの再生にも繋げていきたいという思いがある。まちなかに動いてもらう仕掛けは、商店会の皆さんにも考えてもらわないといけない。行政が、商店会の入り口まで連れていくのは厳しいが、一緒になって考えよう伝えている。公園の維持の面で見ても、売り上げの一部を維持費に回せるメリットがあり、町としてはいいと思う。人が来るため、それをどう活かすかは皆で考える。

鳥本委員

嵐山は登ることはできるのか。今は放牧しているのか。

手島町長

放牧はしている。嵐山をフィールドに初心者登山コースを行う場合や、高齢者の健康づくりで何かを企画することになった場合、モンベルは企画をすることでき、ソフト部分でも協力してもらうために協定を結んでいる。商売だけでなく地域貢献のために関わってもらう。

宿泊施設については、町民自身は泊まらないため否定的である。観光に力を入れると、外部向けに見えて、反対されることが多い。だが、最終的には、町内循環に結び付けられると思う。もちろん町民の憩いの場にもしていきたいし、町民割引などは必要だと思っている。観光論は難しい。

松久委員

外から人が来るのは、それだけ魅力があるということ。町民も名前が売れるることは嬉しいと思う。そういう体験をする、または話を聞くということを通じて、観光が大事と思ってもらうのはいいと思う。

手島町長

誇り、郷土愛があると思うため、地道にそういう意識を植え付けていくしかないと思う。

16:40 閉会